漢字の絵本には、中学や高校でも学習しないような“蛙”とか“蟻”のような難しい漢字が沢山使われています。なぜもっとやさしい一、二年生で学習する漢字から教えるようにしないのか。

このような疑問をお持ちの方が多いのは当然と思いますが、まず石井方式が従来の漢字教育と本質的に違うものであり、その否定の上に打ち立てられたものであることを知っていただきたいと思います。今までの文字教育「かなは漢字よりもやさしい」という考え方が間違っているように、“蛙”や“蟻”は“虫”よりも難しい」という考えが間違っているのです。

文部省方式では、まずかなを学習させ、漢字では、中→虫という順序に提出していますが、文字というものを全く知らない幼児に“かな”と、“中”と“虫”と“蟻”の四つの文字を全く同じ条件で教えてみて下さい。

必ず、どの子も、“蟻”を真先に、しかも容易に覚えます。次が“虫”で、“中”はなかなか覚えません。“かな”に至っては、ずっとずっと難しいことがわかるでしょう。これは実験して初めてわかることで、頭だけではとてもわからないことです。

それともう一つ、世の中に“虫”という名の虫はいません。そういう実在しない物を表した漢字は、理解しにくいばかりか、虫の範囲が広がれば広がるほど頭を混乱させます。

それよりも、実在する“蟻･蜂･蟬”等をまず教え、それらを通して共通する“虫”に気づかせ、虫の概念を理解させる方が、秩序立った思考力を育てることになり、頭の働きを良くします。

石井式漢字教育を受けている子供の知能が高くなるのはそのためです。物事を帰納的に考える能力を育てますから、従って演繹的考察力もつき、物を見通す力、推理力が伸びます。石井方式漢字教育は知能開発を重視するものであって、学校の準備教育をしているのではありません。